

ビジネスキャリア学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	75	ビジネス法務入門
2年	76	税金入門
2年	79	データサイエンス入門

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	BC-2-CC0-06				
	●	●		●						
科目名	ビジネス法務入門				単位認定者	鈴木 翔太		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	BC学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	ビジネスの現場で必要とされる法的な基礎知識につき講義を行う。学んだ知識を使えるようにするため、事例問題を適宜、出題していく。									
到達目標	ビジネスに必要な、法律の基礎的な概念や言葉を正しく理解し、説明できる。 特に、会社のしくみや、会社と従業員の関係等を正しく理解し説明できるようになる。 簡単な事例について、自分で考え、答えを導くことができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない単語や概念が多いと思うので、復習を中心に取り組むこと。 新聞等のニュースに登場する法律も数多く扱うので、ぜひ経済・産業にかかわるニュースに積極的に触れること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ビジネス実務法務の法体系 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)				前回講義の内容について適宜小テスト又は授業内課題を実施するため、レジュメを参照して復習すること (30分程度)					
2	資金調達・企業を取り巻くリスク (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
3	経営資源(知的財産権等) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
4	事業承継と企業価値評価 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
5	契約・債権 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
6	株式会社①(会社法概要) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
7	株式会社②(株式) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
8	株式会社③(機関) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
9	株式会社④(計算書類) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
10	企業の不正行為とコンプライアンス (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
11	労働法①就職活動、労働契約 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
12	労働法②勤怠管理、退職 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
13	内部統制とリスクへの対応 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
14	IT社会のリスクマネジメント (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
15	理解度確認演習									1～14回の内容につき講義内で試験を実施する。
教科書	『中小企業BANTU認定試験公式テキスト 単行本 - 2019/4/13』(公益社団法人 全国経理教育協会(編集)) ISBN=13978-4502300516									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	授業は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。 授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。小テストについては、前回までの講義の内容から出題し、講義内で模範解答を配布した上で解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務に従事。様々なビジネス現場での経験から、具体的な事例を紹介して、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	BC-2-CC0-07				
	●	●		●						
科目名	税金入門				単位認定者	鈴木 翔太		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	BC学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回			
授業の概要	税金は、個人で商業を営む場合や法人組織で事業を営む場合においても、必ず知っておかなければならない知識である。本講義では、初めに、税法入門の内容から始め、次に所得税法における課税標準と納付税額の計算を通じて所得税・法人税の仕組みを学ぶことになる。もちろん、「税金入門」で税金の基礎知識を習得すれば、「個人所得税の確定申告」が自分自身で出来るようになるでしょう。									
到達目標	1. 税法の考え方および仕組みを理解する。 2. 各種税金計算の方法を理解する。									
学修者への期待等	種々の税法の中でも特に身近な税金を学ぶことにより、事務職として働く場面だけではなく、個人での確定申告にも対応できるスキルを身につける。また、税金計算や納付額を学修する事によって、全体的なお金の流れが理解できるようになる。									
回	授業計画				準備学修					
1	税金と会計の関係・租税体系 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)				前回講義の内容について適宜小テスト又は授業内課題を実施するため、レジュメを参照して復習すること (30分程度)					
2	貸借対照表 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
3	損益計算書 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
4	工業簿記と原価計算 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
5	資金管理 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
6	法人税法 (概要・利益と所得) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
7	法人税法 (益金と損金) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
8	法人税法 (申告・納付) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
9	消費税法 (概要・税額計算) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
10	消費税法 (申告・納付) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
11	所得税法 (概要) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
12	所得税法 (申告・納付) (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
13	【遠隔】相続税法 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
14	【遠隔】企業活動のグローバル化と法人税への影響 (講義内で演習問題についてディスカッションを実施する)									
15	【遠隔】理解度確認演習									1~14回の内容につき講義内で試験を実施する。
教科書	『中小企業BANTO認定試験公式テキスト 単行本 - 2019/4/13』 (公益社団法人 全国経理教育協会 (編集)) ISBN=13978-4502300516									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	受講者の理解度に応じて、一部内容や講義順序などを変更することもあり得る。小テストについては、前回までの講義の内容から出題し、講義内で模範解答を配布した上で解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として、法定監査 (金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務に従事。様々なビジネス現場での経験から、具体的な事例を紹介して、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	BC-3-ECO-05				
	●	●		●						
科目名	データサイエンス入門				単位認定者	吉田 幸太郎		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	B C 学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	近年データサイエンスは情報分野だけでなく企業活動のあらゆる場面で必要とされている。本講義ではデータサイエンスとは何かについて学んだうえで、データの整理、統計処理手法、統計量の計算、分析結果の解釈など初歩的な処理能力を身につける。さらに、企業等の実際のデータ等を用いて、組織の課題解決に資するデータ分析など実践的な内容も取り扱う。									
到達目標	データサイエンスの基本的な理解を深め、データ倫理とコンプライアンスを遵守しながら、実データの分析・解釈をするスキルを身に付ける。									
学修者への期待等	データサイエンスを将来にわたって継続的に学ぶ意欲を持って授業に取り組むことを期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	データサイエンスとは				<p>【事前】 各回、前回授業の知識が前提となるため演習問題を繰り返し解く（概ね30分～1時間）</p> <p>【事後】 各回の内容を復習して次の授業に臨むこと。授業内に完成しなかった課題は、指定期間内に提出すること。（概ね1時間）</p>					
2	データ分析の基礎①（平均・分散・標準偏差）									
3	データ分析の基礎②（度数分布表・ヒストグラム）									
4	データ分析の基礎③（順位・偏差値）									
5	データからの予測①（回帰分析）									
6	データからの予測②（時系列データ分析）									
7	数値の差の検討 （平均値の差の検定・分散の差の検定）									
8	予測に役立つ要因の検討 （独立性の検定・相関の検定・重回帰分析の検定）									
9	アンケート解析とテキストマイニング									
10	機械学習演習①（教師あり学習）									
11	機械学習演習②（教師なし学習）									
12	企業データを利用した分析① （データ倫理とコンプライアンス）									
13	企業データを利用した分析② （企業課題と時系列データの概要）									
14	企業データを利用した分析③ （時系列データの分析）									
15	データサイエンスの最新動向と将来									
教科書	『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書（できるビジネス）』羽山博、インプレス									
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。									
備考	課題等の提出・フィードバックはTeamsで行う。 データサイエンス教育を行う旨の協定を、企業との間で交わし、それに基づき実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--